

# 都市内システムにおける時間地図のデイリーリズム

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Itoh, Satoru メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00066463">https://doi.org/10.24517/00066463</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 都市内システムにおける時間地図のデイリーリズム

Research Project

All ▼

## Project/Area Number

06680139

## Research Category

Grant-in-Aid for General Scientific Research (C)

## Allocation Type

Single-year Grants

## Research Field

Human geography

## Research Institution

Kanazawa University

## Principal Investigator

伊藤 悟 金沢大学, 教育学部, 助教授 (20176332)

## Project Period (FY)

1994

## Project Status

Completed (Fiscal Year 1994)

## Budget Amount [\\*help](#)

**¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)**

Fiscal Year 1994: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

## Keywords

デイリーリズム / 時間地図 / 都市内システム / 都市地理学 / 時間地理学

## Research Abstract

本研究の目的は、都市内システムの一日における短期的・周期的変化、すなわちデイリーリズムを、時間地図に基づいて分析することであった。実際の分析に当たっては、北陸の主要都市域の1つである金沢都市圏を、事例地域として選定した。そこでまず本研究では、事例地域の位置づけを明確にするため、同地域の特性を他都市と比較しながら、イメージや社会・経済的観点から検討し、あわせて近年における交通条件の変遷についても調査した。

時間地図復元のための基本的な資料としては、パーソントリップ調査の未集計データを利用することとし、それらを独自に整理・集計・かつ必要に応じて欠損データの補足を行うことによって、都市圏内各地区間の平均所要時間を時間帯別に求め、さらにプール代数法の適用により最短時間距離行列を導出した。上記データに対して多次元尺度構成法を援用することにより、時間地図を時間帯別に復元することができたが、これら時間地図の広がりや考察した結果、そこには朝夕の拡大と昼・夜の収縮があり、拡大は朝の通勤時間帯が夕方よりも明瞭で、一方で深夜から早朝にかけては最も収縮するものであった。また、シンベル指数により時間地図内の近接性を計測した結果、各時間帯ともほぼ同様に、縁辺部から中心部に向かって近接性の向上する同心円的变化パターンを見せたが、詳細に検討すれば、このパターンは地形や交通条件により歪みが生じており、それは特に朝夕の時間帯に明瞭になるものであった。加えて、通常の地図からの乖離度も分析した結果、上記近接性の場合とほぼ同様に、都市圏内では地形や交通条件が原因と考えられる乖離度の地域的・時間的差異があり、以上の諸点から、時間地図は規模の拡大と収縮、歪曲の増大と減少の繰り返しにより、都市内システムのデイリーリズムを支配しているといえた。

## Report (1 results)

1994 Annual Research Report

## Research Products (1 results)

All Other

All Publications (1 results)

[Publications] 伊藤悟: "北陸地方における都市のイメージとその地域的背景" 人文地理(人文地理学会), 46. 353-371 (1994)



URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-06680139/>

Published: 1994-03-31 Modified: 2016-04-21